asian-oceanian standard-setters group

2011 年 6 月 8 日

AOSSG がビジョン・ペーパー（戦略文書）を発表
- アジア・オセアニアからの IFRS への新風 -

アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）は、「アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ・ビジョン・ペーパー（戦略文書）- *アジア・オセアニアからの IFRS への新風* -」を本日発表した。当文書は、AOSSG のこれまでの活動と、今後の中長期的な活動について記載したものである。

近年、アジア・オセアニア地域の経済及び資本市場は著しい成長を遂げるとともに、国際財務報告基準（IFRS）とのコンバージェンスやその適用が着実に進められている。このような状況において、多くの利害関係者から、当地域における各国の基準設定主体がより多くの役割を果たすべきであるとの提案がなされてきた。当文書には、今後、AOSSG が検討を行っていく数多くのイニシアチブが、短期的な活動から長期的なビジョンに至るものまで記載されている。AOSSG では、このようなイニシアチブを検討することが、自身の成功、ひいては IFRS の成功にも結び付くものと考えている。

当文書に記載の通り、国際会計基準審議会（IASB）が当地域の抱える問題を良く理解した上で、その戦略的イニチアチブの優先付けを行う事が可能となるように、AOSSG は、IASB 及び国際財務報告基準財団（IFRS 財団）の他の機関との、より良いコミュニケーションを模索してゆくことを予定している。AOSSG は、自らがグローバルな基準設定で主導的役割を果たしているとみなされるよう、どのようにリソースを充実させ、配分していくかについても検討する予定である。これら文書の詳細については、以下のリンクを参照いただきたい。

http://www.aossg.org/docs/About_Us/Vision_Paper.pdf（英語）

https://www.asb.or.jp/asb/asb_j/aossg/Vision_Paper.pdf（日本語）

本文書の公表に当たって、AOSSG の西川郁生議長は次のように述べた。

「当地域の経済的影響力が増大し、多くの法域が IFRS の適用又は適用に向けた取組を進めていることを踏まえると、グローバルな会計基準の設定プロセスにおいて、我々がより大きな責任を担い、より大きな役割を果たすよう努めることが、極めて重要である。AOSSG は、一組の高品質な基準が開発され、それが成功裏に適用されるよう、引き続き、最大限の努力をしていきたい。」

www.aossg.org

chairman@aossg.org vice-chairman@aossg.org

また、AOSSG のケビン・スティーブンソン副議長は次のように述べた。
「当地域で IFRS への移行が成功裏に行われることは、グローバルな会計基準を改善していく上で極めて重要である。AOSSG は、IFRS の開発に率直な姿勢で臨むことを通じて IASB の活動を支えると共に、IFRS を当地域に適用していくために必要な国内の基準設定活動を続けていきたい。」

AOSSG について:

AOSSG は、アジア・オセアニア地域の認知されている会計基準設定主体のグループである。現時点では、当地域の 25 の国又は地域の会計基準設定主体で構成されており、メンバーは、引き続き、増加している。本グループの議長は、現在、企業会計基準委員会（ASBJ）の西川郁生委員長、副議長はオーストラリア会計基準審議会（AASB）のケビン・スティーブンソン議長である。

AOSSG は以下を目的としている。

(a) 当地域内の各国による国際財務報告基準（IFRS）のアドプション及び IFRS とのコンバージェンスを促進すること
(b) 当地域内の各国による IFRS の整合的な適用を促進すること
(c) IASB の専門的活動に対する当地域からの意見を調整すること
(d) 当地域の財務報告の品質改善のため、政府や規制当局、他の地域組織や国際機関と協力すること